

平成15年 5月21日

かわさき教育プラン策定委員会
委員長 ○○ ○○ 様

川崎市教育委員会
委員長 黒田 俊夫

かわさき教育プランの策定について（諮問）

本市におけるかわさき教育プラン策定にかかる次のことについて貴委員会の意見を求めます。

- 1 教育行政に関する事
- 2 学校教育に関する事
- 3 社会教育に関する事

（理 由）

1 川崎市の教育目標

川崎市の教育目標は、川崎市教育委員会の発足とともに、次のように設定され、教育活動の指針とされてきたとともに、またその帰着点とされてきました。

- (1) 科学的で実行力のある市民
- (2) 民主的で明るい市民
- (3) 文化的で心身ともに豊かな市民
- (4) 生産的でたくましい市民
- (5) 国際的ではばのある市民

2 川崎市の総合プランと中期計画

昭和58年(1983年)3月、高度経済成長時代の終焉と新しい時代の招来の中で、来るべき21世紀に向かって本市がどのようにあるべきかという視点で、全庁的な施策の総合的プランとして、「2001かわさきプラン」が策定されました。

以来、高齢化、グローバル化、高度情報化、景気の長期低迷化等激しい時代の流れの中で、教育委員会の施策も様々な見直しが行われ、次の各中期計画の中に、その施策も位置付けられてきました。

- (1) 「川崎市中期計画1989-1993」(平成2年3月)
- (2) 「川崎新時代2010プラン」(平成5年3月)
- (3) 「同第1次中期計画1993-1997」(平成5年8月)
- (4) 「同第2次中期計画1996-2000」(平成8年4月)
- (5) 「同第3次中期計画1999-2003」(平成11年4月)

3 教育委員会の施策の策定

昭和59年(1984年)6月に市長から「川崎の教育のあり方」についての諮問を受けた川崎市教育懇談会は、昭和61年(1986年)11月・本市の21世紀に向けた教育の全般について、長期的展望と予測のもとにそのあり方を「いきいきとした川崎の教育をめざして」として答申しました。

本答申は、現在まで本市教育のあらゆる分野の基本的指針として、その役割を果たしてきたが、同時に各分野での施策としては様々な計画や報告がなされており、最近の主な計画は次のようになっています。

- (1) 「川崎市生涯学習推進基本計画」(平成5年3月)
- (2) 「Catch Smile Plan 川崎市生涯スポーツ振興基本計画」(平成6年3月)
- (3) 「川崎市幼稚園教育振興計画」(平成10年3月)
- (4) 「川崎市立高等学校教育振興計画」(平成14年3月)

4 教育プラン策定の具体的理由

はじめに、本市の教育に係る施策の総合的な計画は、昭和59年(1984年)の市長の諮問に対して答申があった「いきいきとした川崎の教育をめざして」であるが、策定されて既に18年が経過しようとしており、現在の全国的及び本市の教育界の状況と必ずしも適合していないことや、既に一定の成果が見られる内容もあり、本市の教育のあり方について再構築が必要と考えられること。

2つには、既に策定されている各計画等については、各分野の個別の計画であり、総合的に一体化された計画とはなっていないこと。

3つには、教育委員会が所管する全ての分野での施策の計画が策定されていないという現況に鑑みて、本市全体の教育理念や目標のもとに、各分野の一定期間の相互に調整された総合教育プランが必要と考えられること。